

MAFF

農林水産省

2025 入省案内

持続的な、
社会と世界を。

MAFF

農林水産省入省案内

問い合わせ先

農林水産省大臣官房秘書課

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話:03-3502-8111(内線3002) 03-6744-2001(直通)



農林水産省採用ページ

<https://www.maff.go.jp/j/joinus/recruit/>

持続的な、 社会と世界を。

今を生きるあなたは、未来に何を残したいですか。

誰もが必要なモノにアクセスでき、夢に挑戦できる社会、
人と自然が調和し、安心して暮らせる世界など
それぞれ、理想の未来像があるのではないのでしょうか。

しかし、日本の津々浦々で深刻化している人口減少や過疎化、
先の読めない国際情勢、地球環境の変化など、
今、社会と世界は激動の中にあります。

国家の使命として、国民を飢えさせるわけには、絶対にいかない。
生命のゆりかごになっている農山漁村や憩いある原風景を、
国民共通の財産として、次世代に継承しなければならない。

こうした使命感の下、人を育て、生きる力を与え、
社会と世界を動かす原動力となる「食」と「環境」を
未来に繋ぐことが我々のミッションです。

あるときは日本のムラで、あるときは異国の会議場で、
たくさんの価値観に囲まれながらも、
誰も解いたことのない難題に正面から向き合えるあなたと一緒に
創り上げるのを楽しみにしています。
「持続的な、社会と世界を。」

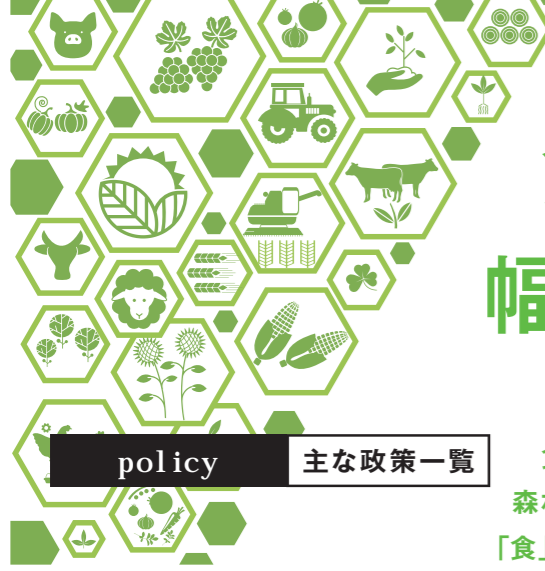


VISION STATEMENT | ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
いのち生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

index

p02	目次
p04	主な政策一覧
p06	プロジェクト事例 01 食料安全保障
p08	プロジェクト事例 02 環境・技術政策
p10	プロジェクト事例 03 産業振興
p12	プロジェクト事例 04 地域振興
p14	職員紹介
p18	若手対談
p20	若手職員アンケート
p22	幹部のキャリアパス① 高山 成年 輸出促進審議官
p24	幹部のキャリアパス② 勝野 美江 大臣官房審議官(兼経堂局)
p26	地方で活躍する職員
p28	グローバルに活躍する職員
p30	働く環境
p31	採用実績



食と環境に関わる 幅広いフィールドで

policy 主な政策一覧

農林水産省は、食料の安定供給、農林水産業・食品産業の発展、食の安全確保、農山漁村の活性化、農林水産物・食品の輸出促進、森林・林業政策や水産政策の推進・実行など、幅広い政策を担っています。「食」と「環境」を核として、フィールドは地方から国際まで幅広く広がっています。



食料安全保障

事例は p06

食料安全保障は、国家の最も重要な責務の一つです。その責務を果たすため、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、これと併せて安定的な輸入及び備蓄の確保を図ることとしています。平時から農業の持続的な発展を図ることで国内の生産基盤を強化し、輸入依存度の高い肥料の国産代替資源への転換や資源外交を展開するとともに、不測時の体制整備等についても検討しています。

keyword

#食料安全保障 #国際交渉 #国際協力 #肥料高騰
#資源外交 #輸入 #備蓄 #ニッポンフードシフト #地域計画
#収入保険 #農地バンク



環境・技術政策

事例は p08

持続可能な農林水産業・食品産業への転換や農業者が減少する中でも食料生産の維持・増大を図るため、「みどりの食料システム戦略」に基づく環境負荷低減の取組やAI・ドローン等のスマート技術の社会実装に挑戦しています。また、カーボンニュートラルに向けた森林資源の循環利用、海洋環境の変化に対応した持続性のある水産業への変革に取り組んでいます。

keyword

#みどりの食料システム戦略 #技術開発 #産学官連携 #新品種開発 #ゲノム編集
#スマート農業 #デジタル #カーボンクレジット #カーボンニュートラル
#再生可能エネルギー #バイオマス #環境保全型農業 #気候変動 #適応策
#緩和策 #生物多様性



産業振興

事例は p10

食料を安定的に供給し、また地域経済を成長させるためには、農林水産業・食品産業を発展させることが必要不可欠です。その実現に向けて、各品目（米、野菜、果樹、肉、乳製品、水産物等）ごとの振興を図りながら、農林水産物・食品の輸出促進と国際交渉により海外マーケットを獲得し、さらにフードテックなどの新事業の創出にも取り組んでいます。

keyword

#地域経済活性化 #和牛 #牛乳 #輸出 #国際交渉 #市場開拓
#知的財産 #新事業創出 #フードテック #環境保全型農業 #有機農業



地域振興

事例は p12

美しい景観・伝統的な食・古民家といった地域の宝を磨き上げ、関係人口を創出し、農山漁村を振興しています。あわせて、世界に誇る和食文化を核とした地域の活性化にも取り組んでいます。また、農林水産業の競争力を高め、農山漁村を災害から守るため、農地やダム・ため池、森林、漁港といったインフラの整備、保全管理を進めています。

keyword

#関係人口 #農泊 #ジビエ #農福連携 #食文化 #農業遺産 #都市農業
#インフラ #農業農村整備 #国土強靱化 #治山 #漁港



消費・安全

国民の健康を守るため、「食」の安全を確保し、消費者が「食」に対する信頼感を持てるような政策の企画・実行を行っています。消費者の視点に立った政策や食品表示の適正化、食と農林水産業への理解を深めるための食育やリスクコミュニケーションなども推進しています。

keyword

#食品安全 #ゲノム編集 #食品表示 #動物検疫 #植物防疫 #CIQ
#鳥インフルエンザ #豚熱 #BSE対策 #食育 #消費者行政



森林・林業政策

利用期を迎えている森林資源を活用しながら、豊かな森林を次代に継承するため、ビルや学校校舎への木材利用の促進や、木材を運び出す林道の整備により、森林資源の循環利用を進めています。また、国民的な社会問題となっている花粉症を解決するため、花粉の発生源となるスギを減らすことに取り組んでいます。

keyword

#木づかい #木質バイオマス #クリーンウッド #カーボンニュートラル
#スマート林業 #花粉症対策 #里山 #森林環境税・森林環境譲与税



水産政策

近年顕在化してきた地球規模の海洋環境の変化に対応しつつ、水産資源を持続的に利用しながら水産業の成長産業化を実現するため、科学的な資源管理の推進、水産物の消費拡大や輸出促進、スマート水産業等の新技術の開発・普及等の施策のほか、水産資源に関する国際交渉をリーダーシップを持って進めています。

keyword

#水産資源管理 #さかなの日 #スマート水産業 #漁業交渉 #海業
#漁港漁場整備 #ブルーカーボン #養殖業成長産業化

PROJECT 01 食料安全保障

食料安全保障の確保は、 農林水産省が担う 最重要ミッションです。

食料安全保障は、国家の最も重要な責務の一つです。その責務を果たすため、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、これと併せて安定的な輸入及び備蓄の確保を図ることとしています。平時から農業の持続的な発展を図ることで国内の生産基盤を強化し、輸入依存度の高い肥料の国産代替資源への転換や資源外交を展開するとともに、不測時の体制整備等についても検討しています。



SOLUTION 01 食料の安定供給の確保



食料の安定供給の確保のために、小麦や大豆、飼料作物など、海外依存度の高い品目の国内生産拡大を推進するなどの構造転換を進めています。その上で、国内生産で需要を満たせない食料については、輸入相手国への投資の促進、輸入国の多元化、官民による輸入相手国との連携強化等の安定的な輸入の確保を図る施策を講じるとともに、米・小麦等の備蓄を行っています。また、農業生産に必要不可欠でありながら、輸入に大きく依存する肥料については、国産代替資源への転換、調達先国との資源外交の展開、肥料原料の備蓄体制の強化を進めています。

POINT 肥料の輸入依存：
農作物の生産に肥料は必要不可欠である一方で、輸入依存度が高く、半導体素子やレアアース等と並び経済安全保障推進法上の特定重要物資として指定されている。

SOLUTION 02 農業の持続的な発展



人口減少や地球環境の変化の中でも、安定的な食料生産を確保するために、農業の持続的な発展に挑んでいます。担い手と農地を確保し、将来の姿を示した地域計画に基づき、農地バンクを通じた担い手への農地の集積・集約化を進め、担い手に対する融資・税制などの重点的な支援を実施することで、生産性向上を図っています。また、天候や自然災害等のリスクには収入保険等で万全に備え、家畜伝染病や病害虫のリスクに対しては、動植物検疫の体制を構築して対応しています。

POINT 地域計画：
次の10年間、誰が農業を担うのかを一つの農地ごとに定めた目標地図をはじめ、話し合いに基づき地域の農業の将来像を定めた計画。

SOLUTION 03 不測時の食料安全保障の確保



世界的な人口増加に伴い食料需要が増加することが予測される中で、異常気象の頻発化や地政学的リスクの高まりなど食料供給を不安定化させるリスクが世界的に高まっています。これに対応するため、平時から国内外の情報収集を行いつつ、不測の事態の兆候が見られる場合には、内閣総理大臣をトップとする政府対策本部を立ち上げ、食料の出荷・販売の調整、輸入・生産の促進の措置を実施できるようにすること等を内容とする制度の構築を検討しています。

POINT 食料安全保障：
良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを手に入れる状態のこと。

PROJECT 02 環境・技術政策

技術による環境との調和は、 農林水産省が担う 最重要ミッションです。

持続可能な農林水産業・食品産業への転換や農業者が減少する中でも食料生産の維持・増大を図るため、「みどりの食料システム戦略」に基づく環境負荷の低減の取組やAI・ドローン等のスマート技術の社会実装に挑戦しています。また、カーボンニュートラルに向けた森林資源の循環利用、海洋環境の変化に対応した持続性のある水産業への変革に取り組んでいます。



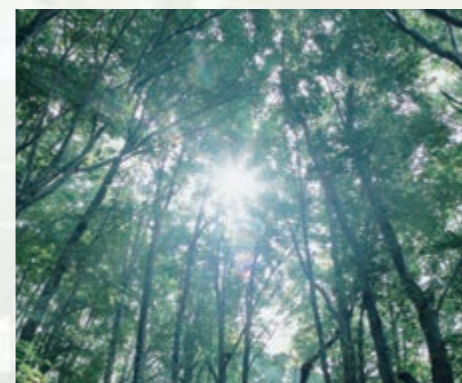
SOLUTION 01 生産力向上と持続性の両立をイノベーションで



我が国の食料・農林水産業は、大規模自然災害・地球温暖化、生産者の減少等の生産基盤の脆弱化・地域コミュニティの衰退などの政策課題に直面しています。将来にわたって食料の安定供給を図るためには、災害や温暖化に強く、生産者の減少等も見据えた農林水産行政を推進していく必要があります。そのため、持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組と環境負荷低減のイノベーションを推進しています。

POINT みどりの食料システム戦略：
生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、例えば有機農業の取組面積を25%に拡大するなど、2050年までに目指す姿と取組方向を定めている戦略。

SOLUTION 02 森林資源を活用したカーボンニュートラルの実現



2050年カーボンニュートラルの実現に向け、森林資源の循環利用や再造林等の推進に向けたイノベーションの創出に挑戦しています。森林は我が国のCO₂の吸収源の大部分を占めていることから、木を伐採し、木材を建築物などに利用し、その跡地にも適切に木を植え、育てる「伐って、使って、植えて、育てる」のサイクルを保つことで、大気中の炭素を木に蓄えさせ、地球温暖化からの脱却を目指します。

POINT カーボンニュートラル：
温室効果ガスの「排出量」から、森林管理などによる「吸収量」を差し引き、合計を実質的にゼロにすること。森林・林業政策では、人工林の再造林や木材利用の拡大等に取り組んでいる。

SOLUTION 03 海洋環境の変化に対応した持続性のある水産業へ



我が国は四方を海で囲まれ、豊かな水産資源に恵まれてきましたが、近年、イカ、サンマ、サケといった水産資源の不漁が長期化するなど、地球温暖化等による地球規模の海洋環境の変化に直面しています。こうした中、科学的な資源の評価に基づく水産資源管理を行うとともに、スマート技術を活用した漁業・養殖業の推進、藻場・干潟の保全や創造による漁港・漁村のグリーン化等の取組を行い、持続性のある水産業の成長産業化の実現を推進しています。

POINT 水産資源管理：
水産資源を持続的なものとするため、科学的な資源調査・評価を踏まえて漁獲可能な量をコントロールし、資源量の水準を維持し、又は回復させること。

PROJECT 03 産業振興

農林水産業・食品産業の強化は、 農林水産省が担う 最重要ミッションです。

食料を安定的に供給し、また地域経済を成長させるためには、農林水産業・食品産業を発展させることが必要不可欠です。その実現に向けて、各品目（米、野菜、果樹、肉、乳製品、水産物等）ごとの振興を図りながら、農林水産物・食品の輸出促進と国際交渉により海外マーケットを獲得し、さらにフードテックなどの新事業の創出にも取り組んでいます。



SOLUTION 01 世界のマーケットを狙った輸出促進・国際交渉



2030年に農林水産物・食品の輸出額を5兆円にするという目標の達成に向けて、海外での販売力強化、輸出産地の育成・展開、放射性物質に係る輸入規制の緩和・撤廃や動植物検疫条件の交渉等に取り組んでいます。あわせて、地理的表示（GI）の相互保護や優れた日本の品種の海外流出防止など、日本の強みを守り生かすための知的財産の保護・活用に取り組んでいます。また、日本産農林水産物・食品のマーケットの拡大のためにも、EPA、WTO等の貿易交渉を行うとともに、G7、G20等の国際会議等では、今後の農業・食料のあり方などの国際的なルールメイキングに参画しています。

POINT 輸出促進に取り組む理由：
縮小する国内市場だけでなく、人口増加や経済成長により拡大見込みの海外市場も獲得することで、農林水産業の収益向上・成長産業化を推進し、国内の食料生産基盤を維持するために取り組んでいる。

SOLUTION 02 新たな畜産・酪農の展開に向けた構造転換



近年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大、国際情勢の変化、円安等の影響により畜産・酪農の経営環境は厳しさを増しており、外部環境の変化にも柔軟に対応できる経営構造への転換を図っていくことが急務となっています。具体的には、「みどりの食料システム戦略」をはじめとする環境対策も含め、持続的な生産、生産資材の利用低減・過剰な輸入依存からの代替・転換を進める観点から、耕畜連携による国産飼料の生産拡大、長命連産性に優れた乳用牛群への転換、多様な消費者ニーズに対応した牛肉生産、スマート技術の活用や人材育成、アニマルウェルフェアの普及等に取り組んでいます。

POINT 耕畜連携：
地域において、海外への依存度が高い飼料について、国内の耕種農家の生産した国産飼料を畜産農家が利用し、家畜排せつ物に由来する堆肥を農地に還元する取組のこと。

SOLUTION 03 日本発フードテックの創出



食に関する課題を解決する様々なフードテックが国内外で勃興しています。世界の人口増に伴う食料増産と食料生産による環境負荷の低減といった相反する要求を両立する技術や、高齢者など食に制約のある者も食を楽しめる「食のバリアフリー」を実現する技術など、その可能性は無限に広がっています。日本発のフードテックで世界をリードするために、スタートアップをはじめとした優れた技術と意欲的な構想を持つ事業者の支援に奮闘しています。

POINT フードテック：
農林水産業・食品産業の発展や食料安全保障の強化に資する新興技術のこと。配膳・調理ロボット、陸上養殖、培養肉、植物工場や3Dフードプリンター等が代表的なもの。

PROJECT 04 地域振興

地域の振興は、 農林水産省が担う 最重要ミッションです。

美しい景観・伝統的な食・古民家といった地域の宝を磨き上げ、関係人口を創出し、農山漁村を振興しています。あわせて、世界に誇る和食文化を核とした地域の活性化にも取り組んでいます。また、農林水産業の競争力を高め、農山漁村を災害から守るため、農地やダム・ため池、森林、漁港といったインフラの整備、保全管理を進めています。



SOLUTION 01 農山漁村発イノベーションによる関係人口の創出



農山漁村には、農林水産物に加え、地域固有の文化・歴史や森林、景観など、多様な地域資源があります。それらを活用し、組み合わせ、農林漁業者のみならず、地元の企業なども含めた多様な主体の参画によって新たな付加価値の創出を図る「農山漁村発イノベーション」に取り組んでいます。これにより、農山漁村における雇用・所得が創出されるとともに、地域外から地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」が増加し、農山漁村の賑わいに結びついていきます。

POINT 関係人口：
移住や観光以外で、地域と継続的に多様な形で関わる人々のこと。
都市農業や農泊等を通じ、関係人口の拡大に取り組んでいる。

SOLUTION 02 世界に誇る日本の食文化「和食」



国土が南北に長く、海、山、里と表情豊かな自然が広がる日本には、「自然を尊重する」というところに基づいた「和食」の食文化が息づいています。「ユネスコ無形文化遺産」として登録されるなど世界からの高い評価を追い風に、和食文化の海外発信等を行っています。また、美味しい日本食が食べられるのはもちろん、地域の食文化にも触れることができる旅先として「SAVOR JAPAN」ブランドを確立し、増大するインバウンドを日本食・食文化の「本場」である農山漁村に呼び込み、地域の活性化に繋がっています。

POINT 世界に広がる和食：
「和食」が「ユネスコ無形文化遺産」に登録され、好きな外国料理ランキングでも「日本料理」が1位に挙げられるなど、世界における和食のプレゼンスは高まっている。

SOLUTION 03 農山漁村におけるインフラ整備



我が国の農林水産業の競争力を強化し成長産業とするため、良好な営農条件を備えた農地、ダムやため池等の農業水利施設、森林・漁港等のインフラ整備を進めています。また、大規模災害時にも機能不全に陥ることのないよう、インフラの長寿命化、防災力の向上等に取り組んでいます。我が国の食料生産を支え、農山漁村の豊かで安全・安心な暮らしを支えるため、農山漁村のインフラの整備、保全管理を力強く推進しています。

POINT 災害に強いインフラ作り：
農山漁村のインフラが災害による被害を受けないようにすることに加え、被害を受けた場合に従前よりも、より防災機能の高いものへと「改良復旧」することで、災害に強いインフラ作りを行い、地域の暮らしを守っている。



川野 悠花

大臣官房政策課係長
令和2年入省／総合職法律
法学部

Q どんなことをしたいと思って入省したか

国民の生活の中で食料は必要不可欠なものである一方、その供給については人手不足など多くの課題を抱えていると感じていました。このような問題意識から、国民への食料供給の確保を使命とする農林水産省で、これから先の国民生活において食料を絶やさないための基盤を作りたいと思い、入省しました。

Q 目下のプロジェクトの概要と自身の役割

食料・農業・農村基本法の改正を担当しています。基本法制定からおおよそ四半世紀が経過し、昨今、食料安全保障上のリスクの高まり、環境などへの関心の高まり、国内の人口減少など、我が国の食料、農業、農村をめぐる情勢は大きく変化しています。このような状況を踏まえ、基本法が今後の農政の基本的な方針としてふさわしいものとなるよう、その改正作業を行っています。

Q 本プロジェクトで得られた経験と成長

農政の転換期において、今後の農林水産省がとるべき政策の方向性が決まる過程を間近で見ることが出来ました。改正作業を通じて得たこのような経験は、これからの自分にとって非常に大きな財産になると思っています。

Q 最も工夫した点、こだわった点

改正後の基本法が今後の農政の基本的な方針となることを踏まえて、農林水産省として進めていく政策の方向性をきちんと法律の中で表現されているか、その表現がすぐに時代に合わないものになってしまわないか、といった観点で、法令上の用語の使い方や意味などを考えながら、よりふさわしい形となるよう努めました。



永島 瑠美

林野庁林政部木材産業課
課長補佐
平成18年入省／I種農学III
農学部

Q どんなことをしたいと思って入省したか

登山が好きで山に関わりたいことに加え、私達の生活に欠かせない、いわゆる公益的機能を発揮する森林の維持・管理に関わりたいと考えていました。大学で学んだことを活かすことができ、かつ現場での仕事を体験できることもあり、林野庁で働きたいと考えました。

Q 目下のプロジェクトの概要と自身の役割

森林資源の充実や木材に対する需要の変化などを背景に、木材業界の構造変化が起きています。また、いわゆるウッドショックなども経験し、国産材のより持続的・安定的な供給体制の強化が求められています。こういった中、川上(素材生産事業者)・川中(木材加工・流通事業者)・川下(建築事業者)それぞれの立場間での相互理解や、森林資源の持続性の確保に向けた連携の取組が重要であり、これらを推進しています。

Q 本プロジェクトで得られた経験と成長

木材の流通は立木～丸太～加工製品と多段階で、非常に複雑かつ地域性もあります。また、森林経営は時間軸が長い一方、木材への需要者ニーズは数年単位で変化します。業界の立場から見た「木材の安定供給」の考え方もそれぞれ異なっており、こういった中で、行政の立場から業界のためにできることは何かを考える難しさを感じました。

Q 最も工夫した点、こだわった点

関連業界の個別事業者へのヒアリングを徹底して行いました。それらの中から得られたのは、山側の現状や置かれた状況を川下に伝えることや、川中・川下の立場で、持続的な森林経営の観点から工夫して取り組まれている先進的な事例を共有していくことの重要性です。引き続き、ヒアリングを進め、施策の精度を高めていきます。



職員紹介

Introduction of staff



坂下 誠

農林水産技術会議事務局
研究調整課課長補佐
平成16年入省／I種農学I
農学部

Q どんなことをしたいと思って入省したか

就職する際に、広くすべての人々が幸福となれるような仕事に就きたいと考えました。日本人として生まれたので、日本社会全体の公益性に貢献できる国家公務員は職業の選択肢として魅力的でした。また、大学で学んだ「食」と「環境」に関係する分野の仕事に就きたかったというもあります。最終的には、官庁訪問の時に面会した職員の話聞き、仕事内容が面白そうだと感じたことが農林水産省を選んだ理由です。

Q 目下のプロジェクトの概要と自身の役割

人口減少下において、生産性の高い食料供給体制を確立するために、スマート農業技術の現場導入を推進していく必要があります。現在、スマート農業技術に適した生産方式の転換を図りながら、その現場導入と研究開発の加速化を一体的に推進するための法制化を省内で検討し

ています。私は、この法制化の検討に加え、スマート農業技術や新品種の開発・実用化を計画的に実施するために必要な予算の確保など局内の全体調整を担当しています。

Q 本プロジェクトで得られた経験と成長

日本の農林水産業を支えるためには、技術が担う部分も大きく、その技術をしっかりと開発し、実用化していくための研究開発予算の確保はとても大事だと考えています。年末の概算決定時に必要な予算を措置できた時は、日本の農林水産業の発展に少しは貢献できたかなと感じます。

Q 最も工夫した点、こだわった点

予算編成プロセスは春先の事業検討・ヒアリングから夏の概算要求、年末の概算決定、年度末の国会承認までおおよそのスケジュールが決まっています。財務省など関係部局との調整に際して心掛けていることは、これまで携わった国際交渉で得た経験も活かしつつ、お互いの立場・スタンスをまず理解すること、相手が求めていることを見極め、ロジックをしっかりと組み立てて説明し、双方で折り合えるラインを前向きに見出そうという姿勢で臨むことです。



恩田 拓亮

水産庁資源管理部国際課係長
平成30年入省／
総合職農業科学・水産
新領域創成科学研究科

Q どんなことをしたいと思って入省したか

幼少期に生物の採集や飼育が趣味だったことが功を奏してか、大学院時代の数年間は、ウナギ類の生態の研究に没頭し、サンプルを得るために研究船で太平洋を東西南北幅広く駆け回っていました。ウナギという水産生物を対象に生態学的な研究をする中で、生物の生態面の情報が十分に考慮された施策が徹底して講じられているのか疑問に感じることもあり、このような業務の遂行に科学的根拠を重視した視点をもって貢献したいと考え、志望しました。

Q 目下のプロジェクトの概要と自身の役割

現在、水産庁において、カツオやマグロ類にかかる漁業の許可、資源管理、予算等に関する業務に携わっています。日本国民の食文化と関わりの深いカツオやマグロ類を持続的に利用するために、漁業者や研究者と密接に関わりつつ、科学的根拠を重視した資源管理、許可制度等の運用

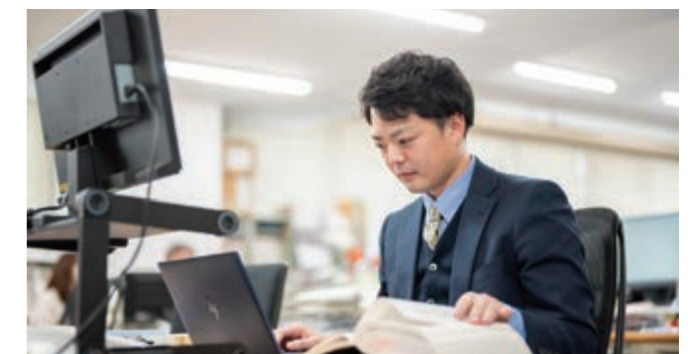
に努めることが自身の役割だと思っています。

Q 本プロジェクトで得られた経験と成長

漁業者と話をすることで、一つの事象に対して全国各地で様々な考えがあるということを確認しました。そのような様々な意見を踏まえつつ、制度を検討・運用するに当たって、自身を含め様々な意見を要約し人に伝える力が身についたと思います。

Q 最も工夫した点、こだわった点

可能な限り科学的根拠をもって制度検討にあたることを徹底しました。研究者から提供を受けたデータを漁業者が理解しやすいよう要約しつつ、可能な限り漁業者が意義を理解した上で物事を進めることができるよう、努めています。





川池 将人

経営局経営政策課経営専門官
平成25年入省／I種経済
教養学部

Q どんなことをしたいと思って入省したか

香川の田園地域で生まれ育ち、地方における人口減少や高齢化、農林水産業をはじめとする地場産業の活力の低下を肌で感じる場面が多々ありました。こうした中で、地方の主要産業である農林水産業や食品産業の活性化を通じて、地方から日本を元気にしていきたい、地域活性化や地域定住に貢献したいと思い、入省しました。

Q 目下のプロジェクトの概要と自身の役割

農業者が減少する中、どうやって将来にわたって「人」と「農地」を確保していくか、その中でも特に「人」、すなわち農業の担い手の育成・確保に関する政策の企画・立案を担当しています。現在、各市町村の皆様に、地域での話し合いにより目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」の策定を進めていただいております。その策定を後押しすることも重要な仕事です。

Q 本プロジェクトで得られた経験と成長

農業者や市町村の担当者など現場の方々はどうしたらうまく取り組んでいただけるか、ということに常に意識して仕事をしています。将来誰がどの農地を担うといった目指すべき農地利用の姿を明確化することは簡単ではありませんが、全国の市町村の将来に関わる仕事を担う緊張感が、自らの成長にもつながっていると実感しています。

Q 最も工夫した点、こだわった点

省内外の様々な関係者と一緒を進めていかなければならないプロジェクトなので、周囲を巻き込んで仕事を進めていく工夫をしています。具体的には、都道府県、市町村、農業委員会、農地バンク、JAなど様々な関係者がいる中で、巻き込みたい相手の役割を理解し、相手を取り組みたくなるようなビジョンなどを意識的に伝えることで、地域計画の策定が円滑に進むように日々頑張っています。



早田 紗己

大臣官房新事業・食品産業部
外食・食文化課
食品ロス・リサイクル対策室
係員
令和3年入省／一般職行政
文化構想学部

Q どんなことをしたいと思って入省したか

「食」を中心に環境や文化、教育等幅広い分野に関わることができることと、「食べる」という誰もが生きていく上で必要な、「当たり前前の生活」を支える仕事ができることを魅力に感じて農林水産省を志望しました。特に、食文化の保護や発信に携わりたいと思って入省しました。

Q 目下のプロジェクトの概要と自身の役割

現在は食品ロス、食品リサイクル関係の業務に携わっています。食品ロスを削減するための事業やフードバンクへ支援する事業の執行等の対応をしたり、食品リサイクル法に基づく登録制度の審査や食品廃棄物のリサイクル工場への視察等を実施したりしています。

Q 本プロジェクトで得られた経験と成長

予算執行等に係る業務も法律に基づいた審査も初めて携わるため、日々勉強をしながら業務に取り組んでいます。どちらも国家公務員の仕事の中では重要な業務であるため、今後のキャリア形成の上でも役に立つ経験になっていると考えています。また、事業者の方との意見交換等も行うため、自らが関係する業界についての知識等も身につけることができます。

Q 最も工夫した点、こだわった点

今までの対応状況や相談事項をデータでまとめることです。上司に相談をする際はできるだけ様々な情報を集め、自分の考えをもってから相談をするようにしていますが、過去の対応も参考にするため、事業者や地方農政局等からの相談のほか、課内で相談したことや指摘事項はまとめるようにしています。



職員紹介

Introduction of staff



梶山 寛喜

輸出・国際局総務課国際政策室
係員
令和2年入省／一般職行政
法学部

Q どんなことをしたいと思って入省したか

子どものころから親の転勤で全国を転々としていたので、地方と関わりのある仕事をしたいと思っていました。他方で、キャリアの中で海外との接点を持ちたいという気持ちもあり、海外ポストも多い農林水産省に入省しました。

Q 目下のプロジェクトの概要と自身の役割

海外からの要人が政務三役に面会される際の対応や、大臣の海外出張を支える仕事を中心です。外交儀礼等を踏まえつつ臨機応変な対応が求められる場面もあれば、時差や機材の重さに負けない体力が必要な場面もあります。コロナ禍以降は国際会議もオンラインでの開催が増えたので、通信環境の整備や他課へのアドバイスも仕事の一部です。

Q 本プロジェクトで得られた経験と成長

海外出張先での交渉力が向上しました。海外旅行ではすぐに断念する場面でも、仕事となるとそうはいきません。あきらめずに手を変え品を変え、少しでもこちらの望む形に近づけるというのは体力を使うものですが、回数を重ねると自分の成長を感じます。

Q 最も工夫した点、こだわった点

相手のいうことを吟味するようにしています。「そう決まっているから」と相手も言っても本当は何も決まっていなかったり、「朝」や「夕方」とこちらが説明しても時刻を訊くときょとんとしたりと、言葉に対する考え方は国や地域で違います。インドで食事をした際に「チキンと書いてあるけどチキンじゃないよ」と真顔で言われたときには天を仰ぎましたが、よく聞いてみると「肉の有無」ぐらいの意味でしかなく、頼んだものを運んでもらえたときにはホッとしました。



新谷 奈津光

農村振興局農村政策部
都市農村交流課係長
平成31年入省／
総合職農業農村工学
農学部

Q どんなことをしたいと思って入省したか

大学で専攻した「農業農村工学」の知識を活かした仕事ができることに加えて、農林水産省本省での政策立案のようなスケールの大きな仕事から、国営事業所での現場に密着した仕事など、様々な経験ができることに魅力を感じ、入省を決意しました。

Q 目下のプロジェクトの概要と自身の役割

農山漁村地域における6次産業化・農泊等の「しごとづくり」や農村RMO等の「くらしづくり」など、農村政策を総合的に推進する「農山漁村振興交付金」を担当しています。私は、取りまとめ担当として、様々な関係部署と予算や制度に関する調整を行っているほか、政策効果を把握・分析するための検討等を行っています。

Q 本プロジェクトで得られた経験と成長

農業・農村の現状や課題を踏まえて施策の在り方等を検討し、課題解決に向けた施策を推進していくことの重要性やそのプロセス等について学びました。また、政策効果を把握・分析するための検討に当たり、その内容について図や表も含めた分かりやすい資料を作成する力が身に付いたと感じています。

Q 最も工夫した点、こだわった点

「農山漁村振興交付金」では、多様な取組を支援しているため、省内の関係部署も多岐にわたります。予算等の作業の取りまとめを行う際に、作業の意図や内容が適切に伝わるよう、メールをできるだけ分かりやすく書き、担当者からの相談等に丁寧に対応することを心掛けています。



日本の食と農の未来を切り拓く。 若手職員が語る、「挑戦と成長」

最前線で活躍する若手職員2人が登場し、
農林水産省だからこそできる成長や
そのための姿勢などについてお聞きしました。



及川 俊太郎

農産局地域作物課係長
令和3年入省／総合職農業科学・水産
農学部

竹内 佳穂

大臣官房広報評価課広報室係員
令和3年入省／一般職行政
文学部

志望動機について 教えてください。

及川 日本の食を支えたいと考えたためです。私は岩手の大自然の中で育ち、幼い頃から両親に食や自然に関する知識を教わってきました。大学では農学部に進学し、植物育種学や食品栄養学等を幅広く学びながら進路を考える中で、周りの友人たちが、美味しいものを食べたときの笑顔を見るのが大好きで、その笑顔が日本中に広がって欲しいと感じるようになりました。この思いから、日本の食を支えるために農林水産省に入省したいと決意しました。

竹内 及川さんは学生時代の学びを活かして就活をされたのですね。私はやりたいことがたくさんあり、何をしたいか定まっておらず、就活中は、これからの人生をどう生きてゆきたいのか、じっくり考えました。自分のために働くことも大事ですが、それが人のためになることなら、さらに素晴らしいと思いました。「人が生きていくうえで欠かせない食を支える」という仕事

は、より多くの人の役に立てる仕事だと感じ、また国家公務員として特定の人に限らず、社会全体に貢献できる点にも魅力を感じ、農林水産省を志望しました。

及川 竹内さんが言うように、社会全体の役に立つという点は公務員としてのやりがいです。竹内さんは、より多くの人の役に立てる仕事だと感じ、また国家公務員として特定の人に限らず、社会全体に貢献できる点にも魅力を感じ、農林水産省を志望しました。

所属されている部署と、 業務内容を教えてください。

及川 私が所属する地域作物課では、国内の砂糖の安定供給を担っています。砂糖は国民の摂取カロリーの約8%を占める重要な品目です。また、その原料であるてん菜は、北海道の畑作において輪作体系を構成する重要な作物、さとうきびは、台風災害への高い耐性を有し、鹿児島県の南西諸島や沖縄県において、代替のきかない作物です。こうした甘味資源作物の生産は、製糖工場や関連産業などと相まって、地域の雇用・経済を支える重要な役割を担っています。地域作物課は、この砂糖の国内生産を維持するための「糖価調整制度」の安定運営を担っています。この制度を簡単に説明すると、砂糖の原料糖を輸入する砂糖メーカーから調整金を徴収し、これを財源として国内産糖の支援に充当する仕組みです。その中で私は、輸入加糖調製品（砂糖と砂糖以外のココアや粉乳等の混合物）からの調整金徴収の運用を担当しています。

竹内 私は現在、広報評価課広報室に所属しています。広報室としてのミッションは、農林水産省の取組や農林水産業に関する情報を国民の皆さまに早く正確に伝えること。その中でも私は主にSNSを活用した広報業務を担当しており、YouTube、X、Facebook、Instagramなどを通じて情報を届けています。特にYouTubeチャンネル「BUZZMAFF」では、動画の企画から撮影、編集までを手掛けており、視聴者の皆さまにわかりや

すく楽しんでもらえるような情報発信を心掛けています。

及川 私も竹内さんの広報室には何度もお世話になっています。特に、地域作物課が展開する砂糖の消費拡大運動「ありが糖運動」で作成する資料や発信内容について、広報の視点から適切なアドバイスをいただけるので、とても助かっています。

竹内 ありがとうございます！広報室は省内部署から広報相談を受けることがあり、多くの部署と一緒に国民の皆さまにとって必要な情報を届けられるよう取り組んでいます。施策担当部署と協力し、より効果的な情報発信ができた時はやりがいを感じます。及川さんの業務も、地域の砂糖生産を支えるという、非常に重要で責任のあるお仕事だと思います！

現在の業務で面白さを 感じる瞬間は？

及川 私の業務で特に面白さを感じるのは、自分も含めて議論した政策が国全体に与える効果を実感できる瞬間です。例えば、糖価調整制度を通じて国内に砂糖を安定供給する仕組みは、国内の農業だけでなく、国民生活全体に影響を与えます。大きなスケールの仕事に携わること、達成感とやりがいを感じますね。

竹内 広報室では、SNSを通じて発信した情報がどのように受け取られているのか、反応をダイレクトに感じられるのが面白いです。どうしたらより分かりやすく伝えられることができるか、日々考えています。農林水産省のSNSをきっかけに、

少しでも農林水産業に関心を持ってくれる方が増えると嬉しいです。

農林水産省で成長を 感じるポイントは何？

及川 私は入省1年目から大きなプロジェクトを任せられました。例えば、福島第一原子力発電所事故からの復興対応では、国際的な場で日本の食品の魅力や安全性を発信するプロジェクトの取りまとめ役を担いました。東京オリンピックを契機に、国内外の記者の方をお呼びして、プリーフィングをするという大掛かりなもので、大きなプレッシャーがありました。乗り越えたことでプレッシャーに強い精神力が培われました。また、現在の部署では、企業の経営者と直接意見交換をする機会が多く、その中でコミュニケーション能力の向上や視野の広がりを実感しています。

竹内 1年目から大きなプロジェクトを担当しているのはすごいです！私も責任感という点は似ているかもしれません。広報業務を通じて、緊張感と責任感が培われましたね。特に、発信した情報が省全体の印象に直結する可能性があるため、慎重さが求められます。また、多くの人々に情報を届けるという経験を重ねる中で、自分の考えに固執しないように、より多くの意見を見たり聞いたりして、物事を考えるようになりました。

及川 農林水産省は若手から大きな仕事を任せてもらうことも多いですね。責任感を持って取り組むことで、自然と成長につながると思います。

農林水産省で成長するには、 どのような姿勢が必要だと お考えですか。

竹内 さきほど及川さんのお話にもあったように、農林水産省は若手職員にも挑戦の機会を与えてくれる環境です。そのため、正確に仕事をこなすだけでなく、「自分で考え、行動する力」も重要だと感じます。また、私の広報業務では、常にどのように情報を発信すれば適切に伝わるかを考える必要があります。事前準備を怠らず、柔軟に対応できる力を養うことが、成長の鍵だと思います。

及川 竹内さんのおっしゃる通り、事前準備は非常に重要です。そして、新しいことに興味を持ち、積極的に学ぶ姿勢も欠かせません。例えば、私の砂糖関連の業務では、砂糖以外の分野にも視野を広げることで、直面している課題を解決するきっかけになったり、他産業との連携の可能性を見出すことができます。自分の担当業務以外を学ぼうとする柔軟性が成長につながると思います。

竹内 確かに、広い視野を持つことで新たな可能性が見えてきますよね。広報業務でも、多様な意見に耳を傾け、異なる考え方を理解する力が求められます。それが結果的に、より良い情報発信につながると思います。

最後にこれからやってみたい ことを教えてください。

及川 私が目指しているのは、海外での業務を通じて諸外国の政策や考え方を学

び、そこで得た知識や経験を日本の政策に活かすことです。特に、人口減少や消費者意識の変化が進む中で、日本の農林水産業が抱える課題に対応するためには、多角的な視点が必要だと感じています。そのため、海外の優良事例などを、日本の農

水産業をより強くするための政策立案に活かしたいと思っています。

竹内 素晴らしいですね！私は、農林水産省が所管する幅広い分野の業務に挑戦することが楽しみです。中でも、特に「農泊」に興味があります。農泊は地域の魅力を国内外に発信できる素晴らしい取組で、地域の食材や体験を通じて、多くの人に日本各地の良さを知っていただけるような取組をもっと盛り上げていきたいです。

及川 農泊は地域の活性化にとっても効果的な取組ですね。竹内さんのように、広報の視点を持つ方が関われば、さらに可能性が広がりそうです。

竹内 ありがとうございます！農林水産省では、多くの分野で新しい挑戦ができるので、今後も自分の興味を追求しながら、いろいろな経験を積んでいきたいです。

及川 私も同じです。これからも自分の視野を広げながら、日本の農林水産業を支える政策に貢献できるよう努力していきたいですね。



若手職員アンケート

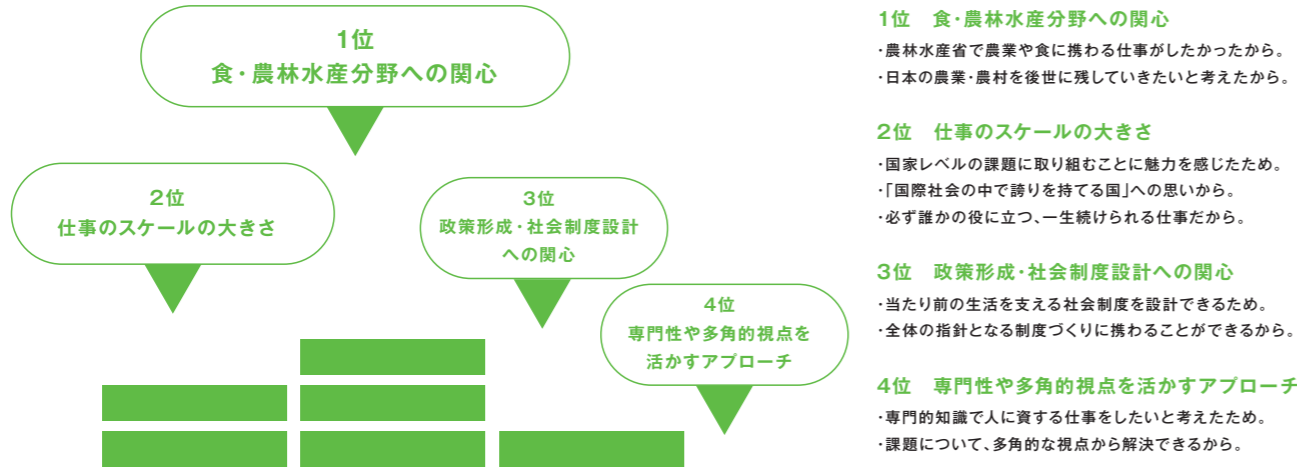
農林水産省では、日々の業務を通じて「食」「環境」「地域」の未来を創るために挑戦を続ける職員が活躍しています。

その中でも、次世代を担う若手職員たちが、どんな思いを胸に抱き、どのような成長を遂げているのか。

今回は、彼らの率直な声を集めたアンケートを通じて、現場でのリアルとやりがいをご紹介します。



Q1 国家公務員を目指したきっかけは？



1位 食・農林水産分野への関心

・農林水産省で農業や食に携わる仕事がしたかったから。
・日本の農業・農村を後世に残していきたいと考えたから。

2位 仕事のスケールの大きさ

・国家レベルの課題に取り組むことに魅力を感じたため。
・「国際社会の中で誇りを持って国」への思いから。
・必ず誰かの役に立つ、一生続けられる仕事だから。

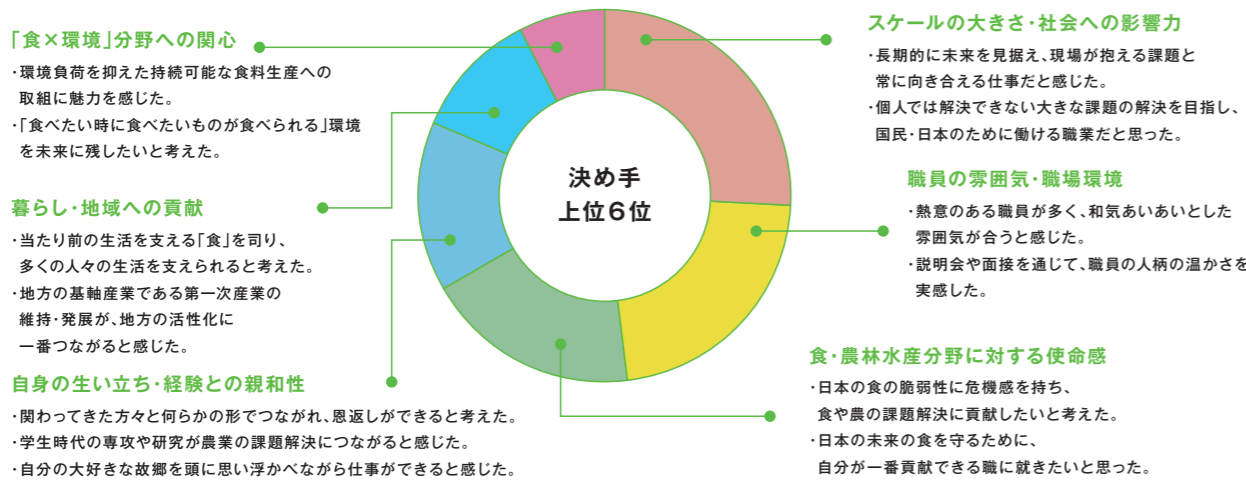
3位 政策形成・社会制度設計への関心

・当たり前前の生活を支える社会制度を設計できるため。
・全体の指針となる制度づくりに携わることができるから。

4位 専門性や多角的視点を活かすアプローチ

・専門的知識で人に資する仕事をしたいと考えたため。
・課題について、多角的な視点から解決できるから。

Q2 農林水産省に入省を決めた最終的な決め手は？



「食×環境」分野への関心

・環境負荷を抑えた持続可能な食料生産への取組に魅力を感じた。
・「食べたい時に食べたいものが食べられる」環境を未来に残したいと考えた。

暮らし・地域への貢献

・当たり前前の生活を支える「食」を司り、多くの人々の生活を支えられると考えた。
・地方の基軸産業である第一次産業の維持・発展が、地方の活性化に一番つながると感じた。

自身の生い立ち・経験との親和性

・関わってきた方々と何らかの形でつながれ、恩返しができると考えた。
・学生時代の専攻や研究が農業の課題解決につながると感じた。
・自分の大好きな故郷を頭に思い浮かべながら仕事ができると感じた。

スケールの大きさ・社会への影響力

・長期的に未来を見据え、現場が抱える課題と常に向き合える仕事だと感じた。
・個人では解決できない大きな課題の解決を目指し、国民・日本のために働ける職業だと思った。

職員の雰囲気・職場環境

・熱意のある職員が多く、和気あいあいとした雰囲気が合うと感じた。
・説明会や面接を通じて、職員の人柄の温かさを実感した。

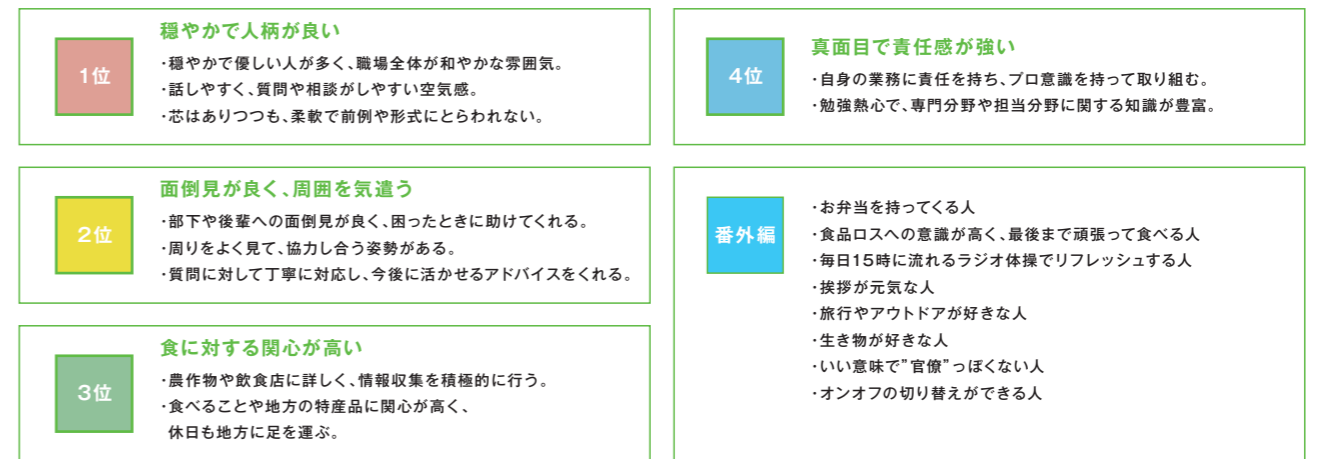
食・農林水産分野に対する使命感

・日本の食の脆弱性に危機感を持ち、食や農の課題解決に貢献したいと考えた。
・日本の未来の食を守るために、自分が一番貢献できる職に就きたいと思った。

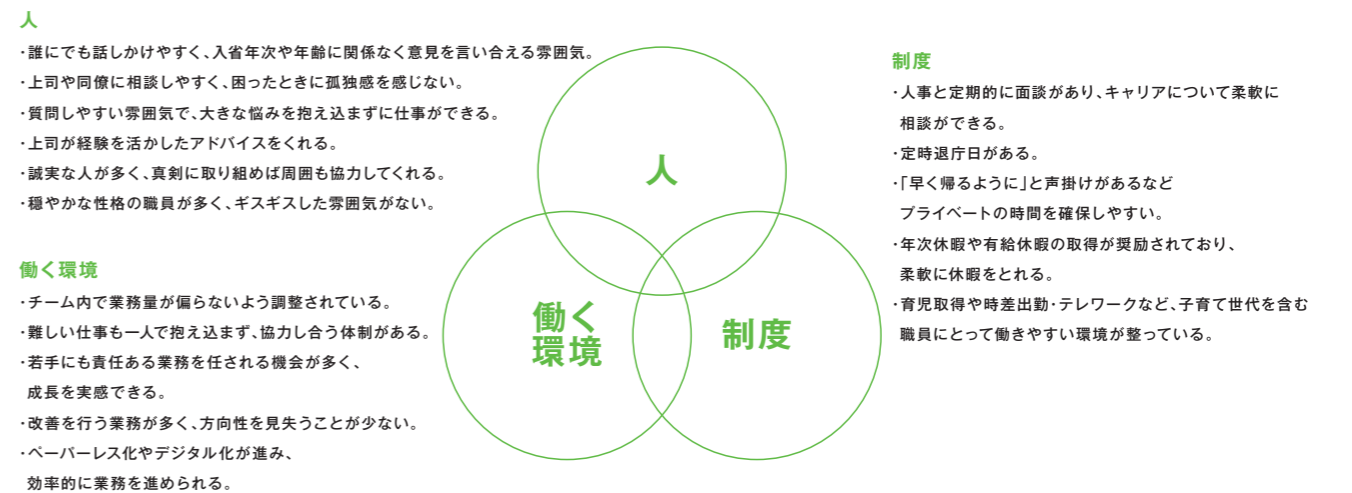
Q3 農林水産省の好きなところは？



Q4 農林水産省はどんな人が多い？



Q5 農林水産省の働きやすさに関して感じることは？





CAREER step

キャリアステップ 1

農林水産省では、食料・農業・農村の持続的発展に向け、多様な政策を企画・推進。若手から政策立案に携わり、国内外の現場経験を積みながら専門性を深め、管理職や国際機関への派遣など多彩なキャリアを築きます。

入省時の想い

自然豊かな故郷から広がる食への想い

海、山、川、田んぼやサツマイモ畑に囲まれた鹿児島県の自然豊かな環境で育ち、牛、豚、鶏、ブリなど、多様な生き物と共に過ごした日々を背景に、日本の地方の視点から食に関わる仕事がしたいと考えていました。入省当初は、地方と食の関係性を中心に据えていましたが、様々な経験を積んで、食のテーマが世界と密接に繋がっていることを発見しました。キャリアを重ねて視野が広がり、地方から世界を、そして世界から地方を見渡す視座で日々の職務に取り組んでいます。

高山 成年

大臣官房 輸出促進審議官
平成7年入省 / I種法律
法学部



WORK 03

コメの安定供給のために、日本各地の現場と連携

食糧部計画課では、我が国の主食であり、食料生産の根幹をなすコメの安定供給に向けて取り組みました。世の中への影響は大きく、日本各地の稲作農家の経営や作柄や日本国内の消費の状況を踏まえつつ、世界のコメの流通状況も考慮しながら、生産面から消費面まで包括的に施策を展開しました。特に、東日本大震災では、生産や物流が大きく混乱する中で、コメの安定供給を維持するため、現場の方々との連携しながら懸命に取り組みました。

WORK 02

WTO(世界貿易機関)での議論を通じ、世の中を学ぶ

ジュネーブ日本政府代表部において、WTO交渉に携わりました。この交渉は、貿易自由化を目的に関税などのルール作りを進めるもので、150を超える国や地域が参加する大規模なものでした。国の規模、文化、宗教など背景が異なる多様なメンバーと議論を重ねる中で、相対的な視座を持つこと、普遍的な言葉で主張すること、最後は信頼関係が大切であることを学びました。そして、これらは日本国内においても等しく大切なことであると痛感しました。

WORK 01

お互いの立場を理解しながら、「連立方程式」を解く大切さを実感

牛乳乳製品課では、生乳を生産する酪農家、生乳を加工する乳業メーカーと共に課題に取り組みました。両者は生乳の取引関係にあるなかで、共通の利益に向かって、また、全体の利益が最大化されるよう、共に前進を目指しました。複雑な「連立方程式を解く」ようなチャレンジも数多ありましたが、そこに国家公務員としての役割があると感じました。こうした経験は現在に至るまで大きく活かされています。

CAREER 01

国家公務員としての基礎を学んだ、係員時代

入省してすぐ、林野庁に配属されました。法令の解釈・運用や予算の立案・執行、国会関係の仕事など、行政の現場に必要なスキルや国家公務員としての基本を少しずつ身に付けていきました。何よりも、多くの先輩と共に働きながら、社会人としての心構えや仕事への向き合い方、信頼関係の大切さを教わりました。この期間に学んだ社会人としての礎は、その後の職業人生を支える重要な基礎となりました。

WORK 04

信頼関係を基に、TPP交渉に従事

在アメリカ日本国大使館の参事官として、モノやサービスの貿易自由化や投資のルール作りを目指すTPP交渉に取り組みました。アメリカの行政府、議会、産業界と日々対話を重ね、それぞれの国益を背負った緊張感の中で取り組みました。お互いが譲れない立場を主張する中で、信頼関係を基盤に共通の利益を見出す努力が続けられました。こうした経験を通じて、国際場裡においても信頼関係の重要性を改めて認識しました。

WORK 05

輸出を通じて、日本と世界を繋ぐ

現在は輸出促進審議官として、日本の農林水産物・食品のグローバル展開を担っています。世界的な人口増加や経済力の向上の中で、我が国の農林水産業・食品産業にとって、外需を取り込んでいくことが極めて重要になっています。これにより国内の基盤強化、そして食料安全保障を確保していきます。日本が国内のみならず海外からも稼いでますます元気になる、そうした発展的な良循環を目指して取組を進めています。

CAREER 05

霞が関で働く醍醐味を感じつつ、職責の重さをかみしめた課長時代

知識や経験を積み重ね、眼前の景色が、より遠くへ、より未来へ、広がるのを実感しました。同時に、その職責の重さをかみしめつつ、政策の立案・執行に真摯に向き合いました。食肉鶏卵課、内閣官房副長官補室、大臣官房政策課などで食料安全保障の強化に向けた食料・農業・農村基本法の改正をはじめ、骨太のミッションに取り組む機会を得ました。その際、マクロの大局観を大事にしつつ、現場の実情を踏まえ、未来志向の政策づくりをいつも意識していました。

CAREER 04

室長として課題発掘とリーダーシップを担う

室長としてチームを率いる立場となり、権限と責任が広がる中で、世の中の課題を発掘し、能動的に政策テーマを探求しました。大臣官房政策課や在アメリカ日本国大使館といった部署において、環境問題から地域活性化の課題まで、多岐にわたる業務に取り組みました。また、チームマネジメントにも注力し、部下が達成感を持ちながら成長できる環境づくりを心掛けました。

CAREER 03

政策企画から実行まで実務の最前線を担う

課長補佐時代には、生産局野菜課や経済産業省貿易管理課などで、多岐にわたる職務を担当しました。課長補佐として、現場の最前線に立ち、業界や霞が関のカウンターパートと向き合いながら、施策の企画・立案・執行を担いました。国内外の施策に携わる中でそれぞれの持ち場で「仕事をやり切る」達成感を味わいました。充実した日々を送るとともに、現場リーダーとしての視点とスキルを磨きました。

CAREER 02

現場の声と政策の大局を繋ぐ、係長時代

係長時代には、担当官として小さなことも含めて多彩な業務を経験しました。牛乳乳製品課では酪農家、乳業メーカー、消費者と向き合い、最適なサプライチェーンの構築に取り組み、現場の課題解決を通じた政策づくりの醍醐味を学びました。予算課では国の予算という政策資源の配分・活用を通じて、政策全体の大局を見据える視点を磨きました。これらの経験は、実務能力と広い視野を養う大きな糧となりました。



未来の農林水産省のために

future

世界への、そして未来への架け橋としてこれからも全力で

課長時代に地方の現場を訪問した際、和牛農家のおばあちゃんが「自分が育てた牛が、マンハッタンとかいうところで人気らしい」と笑顔で語る姿に接し、地方の地平が世界に広がる様に身震いするような感動を覚えました。「グローバルに考え、ローカルに行動する」を地でいながら、我が国の農林水産業・食品産業も、世界中の消費者も、ますます笑顔が広がるよう、世界への、そして未来への架け橋として、これからも前進を続けていきたいと考えています。





CAREER 05

地元・徳島県の副知事として、地域の未来を拓く人づくりに尽力

私の故郷でもある地元、徳島県庁では、農林水産分野の仕事の他に、大阪・関西万博に向けて「万博は「ゲートウェイ」、徳島まるごとパビリオン」と銘打って、万博を契機に子どもたちが徳島の魅力を感じ、発信するプロジェクトなどに尽力しました。コウノトリの飛来する地域で環境保全に取り組む方々、有機農業を営む方と消費者をつなぐCSA組織を立ち上げる若者など県内各地では地域の歴史文化、自然を生かして様々な分野で活躍されておられる方々がおり、県庁での仕事を通じて地方創生は人づくりから、ということを強く実感しました。

CAREER 04

国際的な舞台で、日本全体を巻き込む文化交流の機会を創出

調達基準に位置付けられたGAP認証食材を省庁、都県の食堂、ホストタウンでのおもてなし等で活用促進し、GAP認証取得が増えました。全都道府県への調査により提供意欲のある食材・生産者リストを運営事業者を活用してもらった他、大会初の食堂での産地表記も行い、47都道府県の食材を選手に美味しく食べてもらうことができました。ホストタウン事業では、コロナ禍でもオンライン交流などを活発に行い、世界と日本の結び付きを深め、その後のレガシーとして、今でも交流を続ける自治体も多くあり、かけがえのない経験を積むことができました。



未来の農林水産省のために

future

未来の農業を支える人材育成と持続可能な農業の発展に貢献したい

現在は経営局担当の審議官として、新規就農、女性活躍、農協、農業金融・保険等の各課の業務をスーパーバイズし、職員の方々に助言・指導する役割を担っています。特に職員が主体的に考え行動できる環境を整えることを重視し、政策オープンラボのプロジェクトの伴走も行っています。また、自身の学びを深めるために、農業体験や勉強会などにも積極的に参加しています。これからも未来の農業を支える施策を推進し、次世代の人材育成と地域の発展に貢献するキャリアを積んでいきたいと思っています。

WORK 05

地域の未来を支える徳島県のみどり戦略

徳島県の副知事として着任し、農林水産業、教育、福祉など幅広い分野を担当しました。「徳島県みどりの食料システム戦略基本計画」策定のため、農業、教育などの専門家を交えた検討会で議論を重ね、未利用資源の活用、食育の推進、地域支援型農業(CSA)の導入など、地域独自の取組を盛り込みました。この計画も受け、オーガニックビレッジも生まれ、自治体、JA、生産者、市民の取組が広がっています。

WORK 04

東京オリンピック・パラリンピックで日本の食の豊かさを伝える

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局に、選手村等で提供される食材を日本全国から調達し、日本の食文化の魅力を世界にアピールするというミッションを携えて着任しました。食材の調達基準の策定では、持続可能な取組の実現に尽力しました。また、オリンピック・パラリンピックに参加する国々と日本の自治体を結ぶホストタウン事業や心のバリアフリーの取組など、多岐にわたるプロジェクトも担当しました。この仕事の経験は、日本の魅力の発信や、世界と日本人々をつなぐ貴重な機会となりました。

人間総合科学研究科にて、博士後期課程 修了

CAREER 03

口から食べられることが生きる上でいかに大切さを実感

介護食品(「スマイルケア食」として普及)の仕事では、介護の現場で仕事をされている方や、医療関係者、食品メーカー等関係者の方々と議論をさせていただき、咀嚼や飲み込みが難しい方でも美味しく楽しく食べられる環境づくりが重要で、口から食べられることが生きる上でいかに大切かを実感しました。その後、和食室長に着任した際、伊勢志摩サミットのメディアセンターで和食の展示と併せて日本の「スマイルケア食」の展示や試食会も行い、海外メディアの方々に評価を得ることができました。

CAREER 02

子どもたちの置かれた状況を踏まえ食育を全国に展開する仕事に

出前授業では好き嫌いが多かったり、食や農に触れ合う機会が少ない子どもたち向けには、紙芝居を作ってお話をしたり、田んぼの生き物を持参したり、出汁あてクイズをするなど、食や農に興味をもってもらえるよう工夫しました。子どもたちが実物に触れ五感で体験することで、気付きを得て、行動変容が起きる様子を身をもって体験したことが、その後、食育担当になってからも生かされ、食育を全国に展開していく仕事をする際の礎となりました。



WORK 03

食品産業の様々な課題に直面

食料産業局食品製造卸売課の総括担当の課長補佐として、食品衛生法とJAS法を統合した食品表示法の運用を定める省令策定の作業に携わりました。小さなパッケージの食品にどこまでの記載が可能なのか実効性の検証も行いました。また、超高齢社会に突入し、介護食品市場が拡大しつつある中で、多くの必要とされる方々に介護食品をよりよく活用してもらうための業務にも携わりました。

CAREER 01

問題の本質を知り新たな気付きを得る

環境問題を担当した経験から、ゴミの日にゴミ出しをした後、どうゴミが処理されるかを知らないことで、捨てることに罪悪感が生まれず、ゴミを大量に出してしまうことにつながっているのではないかと思います。一方、生産や調理のプロセスを知らないまま食事をすることが増えていることが、食や農が大切にされない原因ではと気づき、環境問題と農業理解の問題は通じるものがある、これらの解決のためには本質を知る、体験することが近道なのではと考えました。

WORK 02

子どもたちの「食と農」の学びの機会を広げる

食農教育プロジェクトチームが立ち上がるタイミングで、中国四国農政局企画調整室の係長として着任し、事務局メンバーに志願しました。地域の「食と農」をテーマに子どもたちが学ぶ機会を作ろうと学校に職員が出向く「出前授業」をスタートさせました。学校の先生たちが地域の農家を講師に招いて子どもたちが食や農について学ぶ機会を増やしたいと考えて実施したのですが、毎回、学校からのリクエストに応じて教材開発をすることで職員自身も成長していることが感じられました。

WORK 01

入省2年目で挑んだ環境対策の最前線

入省2年目に食品流通局企画課で食品産業の環境問題に取り組むプロジェクトの事務局を担当しました。各課の担当補佐と共に公害からゴミ問題へと変化した環境問題の解決を目指して活動しました。当時、東京湾でこれ以上ゴミ埋立場所が確保できないということが大きな問題となっており、最初のチームの活動として全員で埋立地を訪問することを提案・実行しました。食品産業の環境対策を行う組織の設置や、食品リサイクルの制度創設につながる取組の基になる仕事を行いました。



CAREER step
キャリアステップ 2

入省時の想い

消費者と生産者のギャップをうめて、日本の未来をつないでいきたい

私の就職活動の際には、バブル期の土地価格高騰に伴い、農地が投機対象となり、農業が悪者にされている状況でした。田んぼの中を駆けまわって遊んだり、通学したりと、小さい頃から食や農業に親しんできた私は、人々が農業を大切に思わないのは、農業に触れたことがないことが原因なのではと考え、「より多くの方々に食や農業の大切さを理解してもらいたい、生産者の苦労や思いを消費者の方々に伝えたい」という思いで農林水産省への入省を決めました。

勝野 美江

大臣官房審議官(兼経営局)
平成3年入省/I種農業経済
農学部

地方の魅力を発掘 新しい活力につなげる

石川県河北潟周辺

この地のアピールポイント

もっちり加賀れんこんが美味!



谷内 伸輔

北陸農政局河北潟周辺農地防災事業所係長
平成28年入省/一般職農業農村工学
生物資源環境学部

Q 国営事業所での仕事の内容、役割、やりがい

全国でも有数の農業地帯である河北潟周辺地区の農地を湛水被害から守るため、排水機場を改修する工事を担当しています。近年の集中豪雨や地盤沈下により湛水被害が頻発化していることから、排水機場を改修することで、農地の湛水被害のみならず、宅地の浸水被害の軽減にも寄与します。この事業は地域農業の発展に加え、地域住民の暮らしの安全を確保するための大切な役割を担っています。地域を支える重要な施設の改修を実施することで、事業に対する地元住民からの期待も大きく、やりがいを感じます。

Q 国営事業所でのエピソード

改修工事の実施に当たり、地域の豊かな自然環境を守るため、生態系・生物多様性の保全に配慮しています。この取組の一つとして、関係機関と連携して地域の小学生を対象とした環境イベントを開催しています。これまで、保全対象として工事範囲に群生するハマナスの移植活動等を実施しましたが、小学生の活気にあふれる姿に元気が湧いてきます。地域に最も近い機関として、地域住民や関係機関と一体となり事業を推進することは、現場の最前線である国営事業所が担う重要な役割であると再認識しました。

MESSAGE

私は、学生時代に北陸農政局が実施する国営事業の工事現場を見学した際、大規模で地域住民の大きな期待を背負った工事現場に感銘を受けました。私も農林水産省に入省し、大規模な事業に携わりたく強く思い、入省を希望しました。入省後の北陸農政局での仕事では、私が学生時代に思い描いた大規模かつ地域の農業には不可欠な事業に携わることができています。地域住民の大きな期待を背負う、やりがいのある仕事ができる職場です。みなさんと一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

静岡県焼津市

この地のアピールポイント

水揚げ日本一!
魚の味なら負けません!



角谷 佳晃

静岡県焼津市経済部次長
平成30年入省/総合職法律
法学部

Q 出向先での仕事の内容、役割、やりがい

焼津市といえば「さかなのまち」として有名ですが、水産業に限らず、農林水産業や商工観光業の振興などの経済政策、さらには移住定住、ふるさと納税など、市政の幅広い業務を担当しています。大きな決断を求められることも多いですし、現場に近い分、厳しい意見を頂くことも多いですが、物価高や人手不足など、事業環境が年々厳しくなっていくなかで、このまちの産業は今後どうあるべきか、このまちの姿はどうあるべきかを日々考え、施策を企画・実行していけることが醍醐味です。

Q 出向先でのエピソード

赴任してからまだ半年ですが、年間100事業者を目標に、50事業者以上を訪問し、意見交換を重ねてきました。これまでの限られた現場視察から見えていた現場像と、実際の現場にはかなり違いがあると痛感し、反省の毎日です。20代で部長級の職を拝命したこともあり、最初は大変なことも多かったのですが、最近は、メディア出演などで顔が売れたからか、まちの人から声をかけていただいたり、応援していただいたりすることが増えました。市民の皆様の期待に応えられるよう、これからも頑張っていきたいです。

MESSAGE

日本にはたくさんの「まち」があり、そのまちに暮らし、そのまちを愛する人がいる一方で、その多くが危機に瀕しています。地域が自立して持続し続けるためには、地域経済を強化する必要があるためにも、多くのまちで産業の「核」となっている農林水産業の振興が不可欠だと、地方に出向して改めて実感します。農林水産省は、農林水産業の振興を通じて、日本の将来を見据えて、地域の在り方を現場目線で考え、政策を実行できる職場です。ぜひ、説明会などでその魅力に触れてください。

岩手県

この地のアピールポイント

海の幸と山の幸の二刀流!!



佐野 新

東北農政局岩手県拠点係員
平成29年入省/一般職行政
人文学類

Q 地方勤務先での仕事の内容、役割、やりがい

岩手県南地区11市町の現場（事業者、行政、農協など）と農政をつなぐ業務を担当しています。実際に現場に出向き、自治体へ政策や予算の説明をしたり、農家の方から要望を聞き取ったりすること、そして現場で得た情報を省内に共有することが主な業務内容です。こう書くと地味にも見えますが（実際、私も着任するまではそういうイメージでした）、常に省外の人を相手とし、状況に適した臨機応変な対応が求められる県拠点業務は、難しい反面やりごたえもあります。

Q 地方勤務先でのエピソード

仕事帰りに近所のスーパーで買い物をした際、その日訪問し意見交換をした地元JAが卸した野菜が目につくことがあります。何気ないことですが、今日の仕事が終わって手元にあるのだなと思うと少し感慨深くなります。このように県拠点での業務は、現場との距離が近い分、自らの仕事や結果が社会に対してどのように影響するのを感じやすいです。仕事の内容や結果を自分事として考えられるというのは、仕事のモチベーションアップにも繋がることだと思います。

MESSAGE

「食えることは生きること」という言葉があります。「食」を支える使命を持った農林水産省の業務は多岐にわたります。それはつまり自分に合う仕事が必要である、ということでもあると思います。そのどれもが華やかな業務ではないかもしれませんが、すべては食を支えるということに繋がっています。と、壮大なことを書きましたが、「食えることが好き」というシンプルな理由で選んだ私も充実した毎日を過ごせているので、あまり気負わずに農林水産省を選んでいただければ幸いです。

大きな舞台で日本を背負う 世界をリードする仕事を



アメリカ

この地のアピールポイント

ナショナルパークの美しさ

吉田 有璃

コロンビア大学公共政策大学院
平成30年入省／総合職経済
法学部

Q 留学先での勉強内容、やりがい

コロンビア大学公共政策大学院で、環境政策を専攻しています。80を超える国・地域出身の、様々なバックグラウンドを持つ留学生に囲まれながら、各国政府・自治体の環境政策の有効性について、統計ツールを用いて定量的に分析するとともに、米国・国際社会における持続可能な農業に向けた近年の政策的取組や、農業・環境分野の外交等を学んでいます。さらに、国連代表部でのインターンにて、農業・環境分野の国連決議案交渉に携わることができました。こうした経験は、日本や世界の食・農林水産政策を多角的な視点で見つめ直す貴重な機会となっています。

Q 留学先でのエピソード

ニューヨークは多様性に富んだ街です。様々な人種、民族、宗教、文化的背景を持つ人々が共存し、その多様性への受容度が高いと感じています。例えば、大学での友人とのディスカッションや街中のデモを通じて、異なる文化や価値観が交わる環境を日常的に経験しています。また、日々の食事では、ベジタリアン料理をはじめ、プロテイン種類の選択、ハラールフード専用のフードトラックなど、多様な食のニーズに応える場が充実しています。これらは、日本の食品事業者が多様な食事制限に対応する際に大いに参考になると考えています。

MESSAGE

農林水産省の魅力は、「食・農林水産業」という共通テーマのもと、霞が関、地方、世界と活躍の場が多岐にわたっている点だと思っています。私は、国際機関への出向や国際交渉担当者として活躍することを目標に掲げ、その最初のステップとして留学を決意しました。今後は、留学先で学んだ理論や政策立案手法を活かし、それらを語学力と共に国内政策に応用していきたいと考えています。皆さんも、自身のキャリアパスを意識し、ぜひ省内の様々な方の意見や経験を伺ってみてください！



スイス

この地のアピールポイント

山と湖と伝統の国

鈴木 学

植物新品種保護国際同盟 (UPOV)
平成12年入省／I種農芸化学
農学部

※前列右端が本人

Q 出向先での仕事の内容、役割、やりがい

UPOV条約は新品種育成に投資した育種家の権利を守るものです。条約加入の意義を伝えるセミナー、加盟国や業界向けサービスの開発普及、総会部会の準備運営を行います。クライアントである各国政府・業界を相手に多岐で専門的な業務を10数名のスタッフで効率的に遂行します。個人の知識・能力、チームワークが鍵でオフィサーとして責任を感じます。2023年秋UPOV e-PVPという今後の柱となるデジタルサービスをアジア発で開始できたことは感無量でした。

Q 出向先でのエピソード

条約加入の意義は何か？—これをわかりやすく伝えるため、ベトナム（2006年加盟）の事例をビデオにして配信することにしました。ストーリーの企画からインタビュー、撮影編集のディレクターまで全て人生初でしたが、撮影チームや専門家との真剣なやり取りを通して、UPOV制度が実際に社会や個人レベルでいかに役に立っているかを自らの目で確認し、それをYoutube配信できたことは貴重な経験です。

MESSAGE

幅広い分野で農業科学の知見を活かしながら、農業をイノベーションで元気にしたい、アイデアを持って努力した人が報われる世の中になりたい、そんな思いで働いています。国際的なスタンダードやマインドも日本に取り込んでいきましょう。個人の様々な能力や積極性が結果を左右することもありますが、やりがいはあります。現状把握・分析、提案、調整、実行力、語学、マインドセットなどまだまだ成長していきたいと思っています。



スロベニア

この地のアピールポイント

海山の自然

河上 浩明

在スロベニア日本国大使館二等書記官
平成24年入省／一般職行政
法学部

Q 出向先での仕事の内容、役割、やりがい

政務・経済班の一員として、主に日本と日系企業に役立つ情報の収集やスロベニア政府との交渉を行っています。例えばEUによる日本産食品の輸入規制撤廃に先立ち、EUの中から日本を応援してもらうべく、農業省へ何度も働きかけを行いました。基本的に日本は分野を問わず信頼に足る相手と認知されており、そのことに何度も励まされています。また、広報・文化活動業務にも携わっており、現地の日本ファンと交流する機会があるのは励みになります。

Q 出向先でのエピソード

日本食を取り扱う現地事業者も多く、日系企業だけでなく彼らの力になることにもやりがいを感じています。スロベニア産生ハムは最近日本市場にも参入しているので試してみてください。日本ファンとの交流では、広報・文化イベントで子どもたち向けに紙芝居「いもころがし」をした際の反響や、「日本は大好きでいつか行きたいが実際に日本人と話すのは初めて」とはしゃいでいた学生さんが印象的でした。日本ファンの期待にこたえるべく、邦画、アニメや漫画をチェックするようになりました。

MESSAGE

農林水産省は日本の第一次産業を支え国民を養う責務を負った唯一無二の省庁で、業務においては非常に幅広い分野で経験を積むことができます。得意分野を持つことはとても大切ですが、こだわりすぎずオープンに、知らないことや不便を楽しみつもりでいれば、農林水産省での毎日はとても楽しいものになると思います。海外にいれば日本食を一層おいしく感じるように、現状認識は経験次第です。様々な経験を与えてくれる農林水産省はキャリアを築くにふさわしいフィールドではないでしょうか。

誰もが輝ける職場を目指して

農林水産省は若手の成長を応援しており、様々な研修を用意しています。
また、産前産後休暇や育児休業に加え、フレックスタイム制やテレワークの推進など、
個々の事情に合わせて働き方も柔軟な選択が可能になっています。

01 研修制度

農林水産省では、一人一人が職務遂行に当たり必要となる能力を身につけるための各種研修を用意しています。例えば、農林水産業の実情を経験し、ミクロな視点をも身につけるため、本省に在籍する入省2年目の職員等を全国各地の農家・漁家のもとに約1か月間派遣する「農村研修」があります。また、国際関係の業務も多いため、英語や中国語等の語学研修や人事院の長期在外研究員制度等を利用した海外留学にも積極的に送り出しています。



利用者の声



オリーブの生産からオイルの販売まで6次産業化を実現している香川県小豆島の農園で1か月間、オリーブの収穫作業を行いました。現場ならではの工夫や課題を間近に見るとともに、農家さんや地域の関係者の皆様と密に交流することで地域への愛着も湧き、デスクワークだけでなく様々な「現場」を見る重要性を感じる貴重な経験となりました。

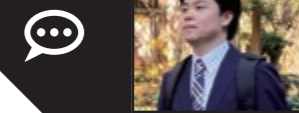
安村 真由子 大臣官房秘書課係長／令和3年入省 総合職政治・国際 経営管理研究科

02 男の産休制度、産後パパ育休制度

農林水産省では、こどもが生まれた男性職員が「育児に伴う休暇・休業を1か月以上」取得することを推進しています。配偶者の入退院の付き添いや育児参加等のために取得可能な「男の産休」と呼ばれる「配偶者出産休暇」及び「育児参加のための休暇」や、通常の育児休業とは別に、子の出産の日から57日間以内に2回取得可能な「産後パパ育休制度」があり、男性の育休取得率は72.2%となっています。



利用者の声



第1子が生まれてから、育児休業等を1か月半ほど取得しました。育児休業を取得する先輩職員が増えてきていることから、取得に当たってのハードルはなく、上司や同じ班の職員が快く送り出してくださったため、育児に専念することができ、貴重な経験となりました。

大澤 嘉騎 農産局穀物課係長／令和2年入省 総合職教養 法学部

03 育児休業・育児時間制度、保育室

出産時の産休や子どもが3歳になる日までに一定期間取得できる育児休業に加え、小学生になる前までに、1日の勤務時間の一部を勤務しないことができる「育児時間」という制度もあります。この制度では、勤務時間の始めまたは終わりに、1日につき2時間以内での取得が可能となっています。また、農林水産省本省では、庁舎敷地内に保育所を開設しており、育児休業復帰後も仕事と生活を両立しながら活躍できる環境づくりに努めています。



利用者の声



育児休業復帰後は育児時間制度を利用し、1時間退庁時間を早め、仕事と育児の両立をしています。子どもとの時間も大切にしながら、仕事も計画的・効率的に取り組むよう心掛けるようになりました。職場には子育て中の同僚も多く、制度が活用しやすい環境でありがたいです。

渡辺 夏奈子 大臣官房秘書課係長／平成28年入省 一般職行政 応用生物科学部

採用実績

職種	試験区分	R4	R5	R6
総合職事務系	政治・国際・人文	2	3	4
	法律	5	9	7
	経済	2	3	1
	教養	5	10	12
	行政	1	1	6
	法務	0	0	0
	総合職事務系合計	15	26	30
総合職技術系 ※()内は院卒者試験による採用者数	人間科学	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	デジタル	0 (0)	3 (1)	1 (0)
	工学	2 (0)	2 (1)	2 (2)
	数理学・物理・地球科学	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	化学・生物・薬学	6 (6)	1 (1)	5 (3)
	農業科学・水産	35 (20)	46 (16)	49 (32)
	農業農村工学	18 (5)	18 (4)	19 (3)
	森林・自然環境	16 (7)	16 (8)	17 (7)
	教養	0	0	0
	獣医	15	17	21
	総合職技術系合計	93	103	115
	総合職合計	108	129	145

一般職事務系(大卒程度)	行政	175	176	204
一般職技術系(大卒程度)	デジタル・電気・電子	0	2	4
	機械	2	1	1
	土木	3	3	3
	建築	0	0	0
	物理	0	0	2
	化学	11	8	8
	農学	77	75	84
	農業農村工学	29	28	29
	林学	69	75	79
	畜産	19	24	34
	水産	14	17	18
	一般職技術系(大卒程度)合計	224	233	262
	一般職(大卒程度)合計	399	409	466

一般職事務系(高卒程度)	事務	12	11	13
一般職技術系(高卒程度)	技術	0	1	0
	農業土木	18	16	23
	林業	25	27	34
	一般職技術系(高卒程度)合計	43	44	57
一般職(高卒程度)合計	55	55	70	

総合職事務系(社会人採用)	経験者	0	1	0
	選考	4	12	8
総合職技術系(社会人採用)	経験者	3	1	1
	選考	8	6	13
一般職事務系(社会人採用)	選考	94	99	159
一般職技術系(社会人採用)	選考	40	32	47
社会人採用合計		149	151	228

※採用者数は、表の記載年度の前年度に実施した試験等により採用した人数